

新年のごあいさつ



前橋市長 高木政夫

市制施行120周年 成熟に向けた前橋のまちづくり

市民の皆さんにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと存じます。

昨年は、3月11日に発生した東日本大震災により、東北地方を中心に甚大な被害を受けた1年でした。本市においても、地震による家屋の一部損壊はもとより、その後の原発事故により、農業や観光分野の風評被害、放射能汚染物質の処理問題などが発生し、今なお多くの課題を残しています。

このような中、家族・地域をはじめ

とした人と人とのつながりの大切さ、強さを実感した1年でもありました。本市といたしましたも、中核市の仲間

である福島県いわき市や郡山市などへ、ボランティアや市職員の派遣、物資による支援を行ったほか、避難者の皆さんを市有施設や市営住宅へ積極的に受け入れました。そして各地域においても、市民グループや民間団体による避難者への食料配付、各種の支援活動など、さまざまな活動に取り組んでいただきました。

また、昨年夏に行われた国内最大級の大型観光キャンペーン「群馬デ

ステイネーションキャンペーン」では、本市も「絆」をキーワードにさまざまな催しを行うとともに、多くの観光資源や地域資源の情報発信を積極的に行いました。とりわけ、目玉イベントである「第1回まえばし赤城山ヒルクライム大会」は、県内外からの参加者が2,000人を超え、運営にも多くのボランティアの方に関わっていただきました。また、地元住民の皆さんによる大会前日のコース周辺の清掃、ならびに当日の温かい声援もいただいた大変素晴らしい大会となりました。

このように、さまざまな取り組みに、それぞれのお立場から格別なるご支援ご協力をいただいた皆さまに、改めて心から感謝を申し上げます。

一方、本市はこれまで、第6次総合計画において「生命都市いきいき前橋」を将来都市像に掲げ、人もまちもいきいきと輝くことができるまちの実現を目指してまいりました。おかげさまで12月に日本経済新聞社が発表した、住民本位の行政運営度を調べた経営革新度調査で、全国809市区のうち6位という評価をいただくことができました。そして、ことしは、前期実施計画の最終年度を迎えるとともに、市制施行120周年という節目の年です。長年にわたり培われてきた伝

統や文化を大切にしつつ、34万の「市民力」を生かし、成熟に向けた前橋のまちづくりに努めます。

こうしたことを踏まえ、平成24年度の行政経営方針を、「住んで安心、暮らして満足。市制施行120周年、前橋の力。」と定めさせていただきました。子どもからお年寄りまですべての市民皆さんの心と体の健康づくりや、安全安心で暮らしやすいまちづくりの一層の推進、地域特性を生かした産業の強化、前橋の多彩な教育文化の発信といった施策に重点的に取り組み、信頼と安心の行政経営を行いたいと考えております。

さらに、ことしは環境教育機能を高めた「児童文化センター」のリニューアルオープンや前橋の顔である「JR前橋駅北口広場」の整備完了に加えて、「アートでつながる市民の創造力」をキーワードとする、市民の皆さんに身近な美術館の建設を契機に、より魅力のある市政運営に努めてまいります。

どうか、市民の皆さんには、市制施行120周年の記念すべき年に、本市の財産であります高い「市民力」、「地域力」を大いに発揮していただいて、「絆」を実感でき、地域の特色が生かされるまちづくりにつなげていただきますよう、お願い申し上げます。

結びに、本年が34万市民の皆さんにとりまして、希望に満ちた年となりますよう、心からご祈念申し上げますとともに、前橋市政へのさらなるご理解とご協力をお願い申し上げます、新年のごあいさつとさせていただきます。

新しい一年が、皆さまにとって

良き年でありますように

平成二十四年 元旦

前橋市議会議員一同

新しい一年が、皆さまにとって

良き年でありますように

平成二十四年 元旦

前橋市行政自治委員一同